

令和6年6月7日 小方まちづくり特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 小田上 尚典

副委員長 細川 雅子

委員 中野 友博、豊川 和也、小出 哲義、末広 天佑、藤川 和弘、
中川 智之

議長 北地 範久

副議長 寺岡 公章

○欠席委員 なし

○小田上委員長 皆さん、おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから、小方まちづくり特別委員会を開会します。
今日の流れは、日程1の調査研究事項についてというところで、皆さんが上げていただいたものをサイドブックに掲載しております。ちょっと漏れがあるというところもありますので、それは口頭で追加していただきたいと思います。

今日はどういう調査をしていくのがいいかという提案をいただいて、分からないところはそれぞれ質疑応答をやりながら、今日決めるというところまでは行かずに、持って帰っていただいて、会派だったりで話をして、こういう取り組み方がいいんじゃないかというのを決めていって、次回の特別委員会のときに取り組む順番を決めて、実際に動きを始めていくというところをしたいと思います。

確認いただきたいのが、前回、5月21日の特別委員会でのスケジュールをサイドブックに表示します。6月に入って、道の駅の基本情報の調査研究を8月までと考えてますので、この3か月の間でしっかり調査研究を行うというのを前提にやらないといけないので、ちょっと定例会が入ってきて、タイトなスケジュール感になるかと思いますが、皆様、御協力をよろしく願いいたします。

それでは、早速、中身について、こういう意図で提案しましたというのを、小出委員のものがこちらの不手際でサイドブックに掲載していませんので、小出委員、すみませんが最後に言っていただければと思います。書いてある順番でお願いしたいと思いますので、まず、豊川委員、2つ提出いただいておりますので、よろしく願いいたします。

○豊川委員 おはようございます。よろしく願いいたします。

私は、テーマ、研究してみたいなど考えておることは、まず、1番が防災道の駅についてということなんですが、こちらは、2020年から国土交通省の防災道の駅認定制度というのが導入されております。これが2025年までを目標に、道の駅が地方創生、観光の拠点として活性化することを目指しているということで、地方創生の中には、道の駅の防災面強化というの含まれておりまして、防災道の駅選定というのがその取組の1つであります。

具体的な取組としましては、道の駅の防災機能の整備、強化に対して、国のほうから交

付金をつけていただいて、事業継続計画策定や防災訓練のノウハウ支援が行われるということでございます。防災道の駅は自衛隊、警察、TEC-FORCEとも救援活動や緊急物資等の配布、復旧活動の拠点などとしての機能が期待されているということで、この大竹市の近隣に、広島県でしたら東広島市、山口県でしたら周南市の戸田にあります防災道の駅が認定されております。東広島市も山口県周南市のほうもちょっと距離が離れておりますので、この大竹市においても、近隣の他市町と連携した防災拠点があればいいかなと、役に立つかなと思ひまして提案させていただきました。

こちらも2020年から国土交通省の防災道の駅認定制度が導入されたというんですが、どのような条件で認定されるのかということと、防災道の駅が今ありますけれども、こちらの平時からの取組が重要であると考えて、認定されている防災道の駅の平常時からの取組、イベントや情報発信などはどうされておるのか。また、道の駅に広域的な防災拠点とし、地域や他市町との連携などはどのようにされておるのかというのを研究したいと思っております。

1番は以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。続けて2番のほうもお願いします。

○豊川委員 2番、オープンハウスについてということでございます。

小方まちづくり特別委員会でも、最初に私のほうも述べた、市民の意見をじっくり聞いてみようという提案なんですけれども、そもそも、このオープンハウスをやるに当たって、ショッピングセンター等は借りられるのかというののもちょっと疑問ではあるんで、交渉してみないと分からないところもあるんですけれども、なぜオープンハウスかといいますと、ワークショップでもよいとは思うんですけれども、ワークショップというのは、限られた人数で意見を出すんですけれども、オープンハウスになると、さらに多い人数で、場所によっては市内外の方の意見も聞くことができるということです。

大竹市で新設される道の駅には、市外のほうからも多く来ていただきたいなという思いもありますので、市外の方の御意見も聞くのも重要じゃないかと思ひます。

オープンハウスをやるに当たって、聞きたいことなんですけれども、まず、性別、御年齢、お住まいをざっくりとお聞きして、道の駅をどのように利用したいかということと、道の駅でのスポーツなので、スポーツは何の種目があったらよいかということと、道の駅で物販のほうはこれから考えていただけるということで、執行部の方にも御答弁いただいたので、どんな物販が販売されていたらいいかなど、さらにお聞きしたいことがあれば、皆さん御意見を出し合ってお聞きしたいなと思っております。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。1番目は、防災道の駅について他市町の事例、そして、防災道の駅というのが認められるための条件というのを整理しておきたいということだったと思ひます。オープンハウスについては、どんな開催方法があるのか、その中でオープンハウスという手段を取った理由というところもお伝えいただいて、道の駅の利用方法、どういうニーズがあるのかという確認をしたらどうかというところでしたね。ありがとうございます。

それでは、先に全部行きましょうか。

藤川委員、お願いします。

○藤川委員 よろしくお願いいいたします。私は3点上げさせていただきました。

まず、自動運転についてです。自動運転、以前からちょっと委員会等で私、発言させてもらっております。小方新駅、まだ確定じゃないので書こうか書くまいか迷ったんですが、せっかく新駅ができるなら、せっかく道の駅ができるなら、晴海臨海公園もありますし、市役所もあります。御年配の方が免許返納した後のことも考えて大竹駅、玖波駅から小方新駅に集まって、そこからの足となる自動運転バスがあつたらいいんじゃないかという思いでちょっと研究したいなと思ってました。また、その理由も、今、国土交通省も2040年に向けて自動運転、日本全国、やってみないかというホームページも出してますし、また、国土交通省のホームページを見ますと、自治体に向けて、今、助成金、自動運転バスのレベル4だったと思うんですが、ちょっとすみません、手元にデータがないのではっきりじゃないんですが、レベル4の自動運転をやっていく、公共交通をやってくれる自治体に補助金を出すと、多分全額補助金だった記憶があるんですが、その辺もちょっと定かじゃありませんが、申し訳ないです。ただ、そういう時期に来てると、多分、令和6年までの募集だったと思ってます。これも定かじゃありません。せっかくならそういう時期に、今、道の駅ができるタイミングを利用しない手はないのかなという思いで、ちょっと研究したいかなと思っております。

次に行きます。道の駅の研究について。これは立地を活用できる道の駅にしたらいのかなと。大竹市って今まで立地はいいよねと、高速道路も国道2号線もある、今から岩国大竹道路もできる。でも立地がいいのになんで国道2号線沿いは栄えないかなというちょっと懸念、不安もあるんですよね。立地がいいのに、なぜ。本当に立地がいいのかいうところもちょっと研究してみたいかなというふうな思いもあります。

立地がいいですよと、何でもある、国道2号線もある、高速道路もある、今度、岩国大竹道路もできる、立地はいいとしましょう。いいんなら、道の駅をいい場所に造るのであれば、どうしたら立地のいいところ、道の駅が皆さんに寄ってもらえる場所になるかなというのも研究したい。西の玄関となり得る道の駅にしたいんですね。人がやっぱり、宮島から岩国まで年間150万人の方が通過している。できれば、その道の駅があることによって、立ち寄っていただけるような道の駅、どうしたらいいのかとかいうのをちょっと研究、課題としたらいいのかなと思って書かせていただきました。

続いて、プロポーザルの進捗。これはもう書いてあるとおりです。今、道の駅の基本構想、公募型のプロポーザルやってます。今の進捗状況を聞いてみたいということです。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

補足すると、現状、プロポーザルが今絞り込み作業に入っているところかなと思います。定例会中の特別委員会で恐らく報告は受けられると思います。もう決まれば報告をしてくださというのをお願いしてますので、そこは安心していただければと思います。ありがとうございます。

では、末広委員、お願いします。

○末広委員 私から1点だけ書かせていただいています。最初いろいろ考えてはいたんですが、この1点に集約するなと思ってこれにさせていただきました。

まず、大前提として今回の道の駅のコンセプトってスポーツ体験型というところがあると思うので、そのスポーツを利用して人を呼ぶためには、やっぱりプロを呼べる施設を造らないといけないと思うんですね。大竹市は晴海臨海公園の野球場でちょっと苦い思い出があるんですけども、その二の轍を踏まないようにプロを呼んで、例えば、鳥栖市とかプロの練習施設を一般市民にも開放して、プロと交流ができる施設だったりがあるので、そういう意味でプロのスポーツチームと交流できる道の駅って全国探してもないと思うんですよ。すごい面白いなと思って、これは人を呼べるなと思って考えました。現状、旧小方中学校体育館も、外部の人の利用も結構言われてます。というのが、やっぱり交通の便がいいんですね。先ほどもありましたけど、高速道路も近いですし、今度、新駅ができて駅からもアクセスできるんだったら、どんどんスポーツする人、体育館に試合をしに来る人を呼び込めると思うので、やっぱりプロが練習している施設となると需要も高いと思うので、そこは外せないかなと思って、これにさせていただきました。

ただ、試合をするとすると、かなり大きな施設になると思うんですね。周辺施設もかなり考えなきゃいけないくて、あと、駐車場もかなり大規模なものを考えなきゃいけないかなと思うので、なかなかそれは現実的じゃないかなと思ってるので、練習できる施設でいいと思うんですね。そこをどういうふうに、プロを呼べる練習施設にできるかというのを研究したいなと思います。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

では次、中川委員。お願いします。

○中川委員 私はいろいろ考えました。道の駅、何がいいのか、どういう施設がいいのか、今、末広委員が言ったように、スポーツを1つ考えてることなので、一応事例を見るのが一番いいんじゃないかと思ったので、いろいろ探してみました。道の駅のコンセプトというんですか、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能、この3つがなければならぬという何か基本的なことがあるみたいで、それと、ここは晴海臨海公園と、あと市役所が近くにありますよね。そういった立地条件も考えながらこういった事例がいいかというのをいろいろ見てみたんですが、そういうのはなかなかないです。全国見ても。

一応2つほど、こういったことが大竹市もできそうかなというのをちょっと、1つは違うんですけど、最初の鯉が窪という、岡山県新見市にあるんですけど、ここは施設を民営で行ってます。アンケートを取って、最初は合併する前からこの道の駅ができてたんで、新見市じゃなくて、町だったんですね、市じゃなくて。そこで、この町に何が必要かというのをアンケートを取って、診療所が断トツで一番だったと。次に図書館や音楽施設とか、そういったアンケートがあって、それらを取り入れて一つの施設に、道の駅にあるんです。ですから、ワンストップで、市役所、役場の役目もあるし、診療所もあるし、図書館もあるし、文化施設もあると。小さい規模なんですけど、そういう町にあるんですよ。

考えてみると市役所が近くにあるし、公園もあるし、そういったことが事例でいいんじゃないかなど。あんまりでかでかとやっても、人が来なければ何の意味もないので、やはり経営、収益を出さないといけないということで、規模的にもいいんじゃないかなど。研究を1つしてみる必要があるんじゃないかと思いました。ここも自動運転やってるんですよ。平成30年に自動運転で一応実証実験をやったんですけど、自動運転の車に野菜を積んで運ぶと。道の駅まで持ってくる。そういう取組もしてるみたいなんです。非常に興味深いなということもありました。

もう1つは、川場田園プラザ、ここはもう日本一みたいなでっかい道の駅でして、以前は経営が赤字だったんですけど、社長が変わって、酒造会社の社長が社長に就任して、それから経営方針を変えてぐんと伸びて、今は年間200万人が訪れるという全国一のモデル道の駅に選定されているというところであります。

これが大竹市にとってどうかということなんですけど、いろいろと参考になることは、なぜ人がここに来るのかということ参考になればいいんじゃないかと思って、ここを出してみました。あと、経営方針、どういった社員教育をしているのか、なぜV字回復したのか。そういったことを研究してみる必要があるかなどと思って出してみました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

では、順番だと副委員長ですね。お願いします。

○細川委員 では、続いて報告をいたします。私も2つの視点で出させていただきました。

両方とも道の駅関連ですが、1つが民間の力をいただいている公共施設を造っていったというような視点。もう1つが、もう道の駅に特化して、成功例というか、特色のある道の駅ということで調査したらどうかということで出させていただきました。

まず、PPP、PFIの手法のほうですが、1つ目が廿日市市の宮島水族館の整備事業です。ちょっと時間たっていますが、大竹から一番近く、いろいろ本音の話も聞けるんじゃないかという思いもありまして、平成20年からですので、その後の話もいろいろ聞ける可能性が高いということで、ここは1回勉強してみたらどうかと思いました。

2つ目が鹿児島県指宿市の地域交流施設です。ここは地域のニーズをしっかりとつかんで、地域の皆さんにも運営に関わっていただくようなやり方で非常に地域の皆さんに愛されるような、よく使っていただける施設になっているということで、どういう形になっているのかというのをちょっと興味がありました。

3つ目が、これはまだ現在進行中ですかね、安芸太田町の道の駅の整備について、公民連携の在り方を研究しているようです。一組について一応報告書か何かも出ておまして、どういう道筋で、今後、大竹市も道の駅をどうやって民間の力を入れていくのかというのを考えていくときの参考になるのかなどと思いました。

次が、今度は道の駅に特化してちょっと幾つか見ましたが、最初の道の駅の石川県輪島市の無人自動走行は、今、藤川委員や中川委員から、自動運転をやってる道の駅といういろいろな紹介がございました。私もこれを出してから、後でまたちょっと調べてみたんですけど、結構道の駅を拠点として自動運転の試行というのをいろいろなところがやってい

るようです。国も推進したりしてるのもあるので、道の駅を拠点とした自動運転、どんなやり方があるのかというのを、これはぜひ、ほかの委員さんからも出てるし、輪島市にこだわってるわけじゃないので、このテーマでどこか見に行きたいなと思います。調査したいと思っております。

2つ目は、ちょっとスポーツ体験型というのに近いかなと思って、香川県小豆島のオーブ公園という道の駅が健康増進という辺りに視点を置いて、地域の皆様の健康をとという辺りで地域の方々にたくさん使っていただけるような道の駅ということでやっているようです。

もう1つが、これもまた藤川委員の立地を生かしてというのと非常に近いんですけども、大竹市の現在考えている小方中学校跡地の立地を生かして、どういう可能性があるのかというのを、実際にやってるところの調査をしながら可能性を見いだしたらどうかということで提案させていただきました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

中野委員、お願いします。

○中野委員 よろしく申し上げます。質問もしようと思ったんですけど、すみません、これ私の思い違いだったら申し訳ないんですけど、各論出すというより方向性なのかなというところで、抽象的な表現で私は記載させていただいております。

先日の執行部からの説明もあったんですけど、やっぱり委員皆さんそれぞれ知識量も違いますし、特別委員会として何をしていくべきなのかというところで、大竹市のスピード感であったり、これからどういうところに留意していかなければいけないのかというところの第三者的な意見をお伺いしたいなというふうなイメージで考えておりました。

11、12、13とそれぞれ分けては書いてるんですけど、基本的な思いとしたら、今このスピード感でやって大丈夫なのか。これから議論を進めていく上で特別委員会として何を留意すべきなのかというところのチェックポイントというのを特別委員会の委員、メンバー皆さんの知識の底上げというところとちょっと語弊があるかもしれないんですが、共通認識として、第三者の意見を聞いてみたいなというところでコンサルティング会社の方であったり、実際、道の駅完成まで導かれた方に、これからどういう課題が出てくる、議論をしなければいけないというところのチェックポイントを把握した上で、この研究テーマを取り組んでいかなければいけませんねというところなのかなというイメージで私考えておりました。というところで、今、心配なところが、執行部の説明そのままのみにして見せるわけじゃないんですけど、これというところではなくて、これで大丈夫なのかな、こういうところを注意しなきゃいけないのかなというところの知識を特別委員会として入れるべきなのかなというところで、この3つを書かせていただいております。思いとしてはそういう思いです。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

ここに記載がないんですが、小出委員、お願いします。

○小出委員 事務告を経由せずにそのまま委員長に送ってしまったので、漏れてしまいました。すみませんでした。

私のほうから2つほど、まず、テーマとしては、道の駅の成功例・失敗例の研究ということです。これまでの執行部の動きを見ていましたら、道の駅に向けて粛々とスケジュールを進めていらっしゃるというふうに見られて、この段階において当委員会では何かあるのだろうかというふう考えたときに、提案というのは確かにできると思うんですが、それと同じようにやっぱり助言や監視という立場から、こういう道の駅を造ったらいいよねというふうな成功例というのはお金をかければ幾らでもすばらしいものが出来上がるだろうと思うんですが、主に失敗例ですよ、失敗例にも幾つかパターンがあると思いますので、こういう道の駅を造ってしまったら、必ずその後はなかなか集客が得られないねというふうな、そういったものを研究してみて、それを助言や監視の一つの、こちらが持つべきものにしておいてはいかがかなというふうなところで、成功例・失敗例の研究というところがまず1つですね。

2つ目としては、スポーツ体験型道の駅の類似系の調査というところで、大竹市のD地区のエリア、スペースに合うぐらいの規模の中で、執行部のスポーツ体験型道の駅というのは、恐らくこれはもう変わらないだろうというふうに思いますので、インターネットで調べると、スポーツ体験ができる道の駅というのはかなり出てくるんですよ。ですので、道の駅でありながらスポーツ体験ができるような、そういう類似系の道の駅を調査してみたいかなというところで提案させていただきました。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

大きく分けて、道の駅でこういう取組をしたらいんじゃないかという具体策と、道の駅に対する基本情報、こういうものを押さえておかないといけないというところ。あとは、事例調査というところが大きく出たかなと思います。出たものに関して聞いておきたいというものがあれば質疑をしていただけたらと思います。

具体策についてというところも、今後、12月をめどにこういうものがあつたほうがいいよ、検討してくださいというのを執行部に出すためには、具体策はもちろん検討しないといけないんですけども、それよりも、先ほど中野委員が言われた部分で、ざっくりとこれからどういう取り組み方がいいんだろうかというところも念頭に置きながら進めていけたらと思うんですけど、今日何か決めるというわけではなくて、皆さんの取り組み方どうしたらいいんだろうというのを探る会にしようと思っておりますので、質疑応答、できる限りやっていきたいと思いますが、何かございますか。

中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。お話聞いて、委員長おっしゃっていただいたように、私と小出委員、同じようなジャンルで言うとそういうところなのかなというふうな認識でした。特別委員会なので、知識や見解のそごがあつてはいけないので質問させていただきたいんですけど、特別委員会として最終的にどう持っていきたいのかというところのすり合わせが必要なかなと思った上で、ちょっと3名の委員に質問させていただきたいです。

私としたら、方向性、こういうところ、さっきも監視、注意する立場というところのお話もあったと思うんですけど、そういった位置づけで執行部に対して意見や、こういうところを気をつけていかないといけないよね、こういうところを議論していかないといけないよねというところの意見をやる立場なのかなというふうに、私自身思っていました。

豊川委員と末広委員と藤川委員にお伺いしたいんですけど、防災道の駅、自動運転バス、プロを呼べるスポーツ施設というふうな意見を出されてると思うんですが、これを調査研究して、最終的に執行部にどうしたいのか、これを取り入れてほしいというところでの調査研究をしたいのかというところの、ゴールまでの道のりのイメージをお伺いしたいです。小方まちづくり特別委員会としての意見としてこれを出すのか、どういったイメージなのかというのがちょっと具体的なところで分からなかったもので、なぜこの研究をするのかというところを教えてくださいたいんですが。一番上から、豊川委員から教えてもらっていますか。

○小田上委員長 豊川委員。

○豊川委員 ありがとうございます。そうですね、私としては、早く皆さんで調査研究をしていただいて、時間がかかればかかるほど執行部の方が順次決定されるので、調査研究は早めにしていただきたいなと思っております。提案を執行部の方にさせていただいて、取り入れていただけるのなら取り入れていただきたいなとは思っております。

○小田上委員長 ちょっと待ってください。執行部が勝手に決めるということは多分ないと思うので、皆さんが前提としていただきたいのは、執行部から出てくるものに対して、しっかりと審査ができるように知識を蓄えたいと皆さん思ってる段階だと思うんですね。なので、その方法をどうするかという話なので、豊川委員の言われることは分かります。でも、執行部が勝手に進めちゃう感じではないけども、言われたものをちゃんと審査できるように勉強しましょうというところの認識は一緒ですよ。

豊川委員。

○豊川委員 ちょっと言葉に語弊がありました。申し訳ございません。勝手に決めるというわけではなくて、勝手にという言葉がちょっといけないと思いました。提案が順次執行部のほうから上がってくるので、そのときに防災の道の駅もということになると、我々が執行部を邪魔してるような図になってしまっはいけないので、早めの調査研究というのは必要じゃないかなと思いました。

○小田上委員長 ありがとうございます。早めというところで、12月までにある程度形を出しましょうという方向になって、そこまでであれば心配されてる執行部に迷惑というのはかけずにいけるかなと思いますので。

中野委員、どうぞ。

○中野委員 ありがとうございます。もうちょっと聞かせてください。例えばなんですけど、防災道の駅の必要性、豊川委員感じてらっしゃる。特別委員会で研究すべきだということだと思うんですね。それを提案されるというのは、僕全然いいと思うんですけど、それで、例えば、視察、防災道の駅見に行きましょう。執行部に最終的に防災道の駅必要なんです、そういった要素を入れてくださいという提案をしたいというイメージということなんです。

か。

○小田上委員長 豊川委員。

○豊川委員 そうですね。防災道の駅を何か所か見に行っ、お話も聞いて、大竹市でそれが可能であるなら、執行部に提案していきたいなとは思っております。そもそも、防災道の駅の認定制度というの、すみません、私ちょっと勉強不足であまりちょっとよく分かってないところもあるので、どのような条件で認定されるのかということから研究していきたいなとは思っております。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。ここが各論なのか、道の駅というところのもうちょっと大きいところで議論するかということだと思うんですけど、具体的に防災道の駅が豊川委員が必要ですよというふうなお話は、多分これからプレゼンとかでいろいろされると思うんですね。ただ、それを特別委員会として、皆さんが防災道の駅必要ですね、これを執行部に届けましょうというような各論の議論をするのかどうかというのがちょっと不安なところでした。それを特別委員会すべきなのか、特別委員会としては、道の駅とか、さっき言われた成功例・失敗例という大きな枠組みで意見、議論するというところの位置づけかなと思ってたので、各個人でこれをしてほしいというところは、特別委員会じゃなくて、特別委員会以外のところでの一般質問ができるかどうか分からないですけど、というところで、特別委員会として何をするのかというところで、各論の議論というのは必要なのかなというのを、ちょっと今聞いて感じました。多分、防災道の駅というのが必要な委員もいれば、いやそこじゃなくてもっとこっちやったほうがいいんじゃないというところで、各論の議論を進めていくべきなのかなというところが心配だったんで、そのイメージをお伺いしたかったです。というところで、すみません、藤川委員、自動運転バスのところのイメージ、どういう形で最終的に持っていきたい、研究したいかということをお伺いさせてください。

○小田上委員長 藤川委員。

○藤川委員 ありがとうございます。私も提案したかったです。今、執行部のほうはやる方向性には進んでません。何でやらないかというのは聞いてないんですよ。やらない理由も知りたかった。私は研究もしたいし、やるならば、私自身もまだ勉強不足でありますし、私個人では重さがあまりありません。できればこの委員会で提案というか、ここまで研究しましたよと、考えてみてくださいませんかというぐらいの気持ちでは書かせていただいております。だから、今後、委員会が今からどういう方向性になるかというのは、ちょっとすみません、私の先走りかも分かりませんが、まだどういうふうなやり方というのは、私の中でも分かってないですし、今からの方向性は変わってくるんでしょうけど、今だけで言えば、できれば皆さんで勉強して、委員会でこういう研究をしましたと、ぜひ参考にして考えてみてくださいぐらいの気持ちで書かせていただいております。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。最終的に大きな枠組みとしての研究。その中で、説得性を持たせるために各論、具体的な提案というところは必要だと思うんですね。なので、

各論ありきで議論してはいけないなというふうに思ったので、その思いをお伺いさせていただきました。

私としては、先ほど中川委員がおっしゃられたように、民間の経営者の方を導入したりというところの大きな枠組み、その中で自動運転というところが、そういったポイントが必要なんじゃないんですかというところの前提条件を踏まえた上でテーマを決めていくべきかなと思ってたので、各個人がこれをやりたいんで、小方まちづくり特別委員会でやりましょうということになると、ちょっと委員会としては違うのかなというところで確認させていただきました。ありがとうございます。

末広委員もよろしいですかね。

○小田上委員長 末広委員。

○末広委員 個人の思いもそうなんですけど、特別委員会でまとめたものを執行部に上げることと、個人で一般質問して上げることと意味違うと思うんですよね。そこも前提なんですけど、プロを呼べるスポーツ施設にするに当たって、結局、ほかの方と一緒になんですよね。コンセプトがここなので、コンセプトに沿って、例えば、ほかの道の駅を研究するとか。確かに各論で、まず基本のベースをここに置いて、それを共有して、その上で提案という形を持っていけたら一番いいのかなと思うので、ここは順番はさておいて、私はゴールはこのプロを呼べるスポーツ施設にしたいというの、こちらも提案ですよね。そのためにほかの道の駅の研究だったり、運営方法の研究だったり、コンセプトを持って研究するのがいいんじゃないかなと思ってそうさせていただきました。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 分かりました。もちろん思いがあって提案されてるとするのは皆さん分かっていますので、そこについて否定するつもりはもちろんありません。ただ、最終的に執行部にどういうふうな形で持っていかれてるというイメージが知りたかったので質問させていただきました。あまり私ばかりが言ってもあれなので、一旦ちょっとここで締めます。御答弁いただきありがとうございます。

○小田上委員長 初回の小方まちづくり特別委員会で何か出すことを目的とはしませんという話はしました。ただ、その中で道の駅については、必要な機能というのを執行部に、これはあったほうが良いという提案は12月までの期間でやりましょうという話になってるので、具体的なものの導入というのも一つ提案を上げることは可能だと思います。ただ、それが総意でやるべきと思われる方がいるか、全員一致か、多数決でやるかという、方法はいろいろあるんですけど、どういうものを執行部に届けるかというところは今から調査していく中で出してくれば良いかなと。具体的なものの提案というのもあるかと思しますので、その辺りは念頭に置いてもらってお願いします。

ほかありますか。聞いておきたいこと。どんどん聞いてもらって。

中川委員。

○中川委員 今、具体的にと言われたので、具体的に出さなかったというのもひとつあるんですけど、私、道の駅が好きであちこち行って、道の駅寄るんですけど、何を目的に行くかといったら、大抵地場産物なんです。その土地にしかないやつを目的に行くんです。

ですから、道の駅、やっぱり地場産業、野菜とか海産物とか、普通の野菜ならスーパーに行けばあるわけですから、道の駅にしかないものを何か置いておくべきではないかと思えます。大竹市らしいもの。それはやっぱり必要だと思えます。

あと、それを目的に来る人が来た場合、売り切れたりしてたら、せっかく遠くから来たのに売り切れてるとか。1回目はしょうがないかもしれないけど、2回目行ってまた売り切れてると、もう二度と来ないと思えます。ですから、それを常時供給できる、いつもある地物、そういうものを作るべきだと思えます。例えば、農産物だったら、野菜とかだったら松ヶ原の放棄地、放棄農地を利用して、そこで作るとか、そういったことも考えなければならぬんじゃないかなと思えます。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。道の駅から産業をしっかりつくっていくという話になりましたけど、そういう視点も持つべきじゃないかというところ。出された調査項目の中で何か聞いておきたいこととかあれば、ほかございませんか。

ないようであれば、皆さん、やっぱり具体例の調査というのと、道の駅がどんな種類があって、どういう機能が必要か、調べれば分かるんですけど、載ってるものはあるんですけど、実際に講師とかに話を聞くという作業をしたいなと思われてるんじゃないかなと思うんですけど、皆さん、そういうイメージはおありですか。

何かありますか。大丈夫ですか。

中野委員。

○中野委員 そうですね、やっぱり客観的な意見を聞きたいというところでした。中川委員がおっしゃっていただいたところも、多分一般市民の皆さんが思われている道の駅のイメージというのは、そういったニーズももちろんあると思うんですね。ただ、仕掛ける側がどこまでニーズとかとマッチングさせるための企画であったり、提案とかという、考える側というところの知識を調査研究して行って、市民の声も拾いながら、ほかの事例こういうところなんじゃないんですかというところを執行部に伝えるのが僕らの役目なのかなというふうに思ってたので、視察の前にそういった専門的な方からお話を聞いて、それでアンテナ立てて視察に行くという過程なのかなというふうに思いました。

以上です。

○小田上委員長 取組の方法とかやり方を決めていこうという段階の話合いなので、皆さんと一緒に方向性を決めていけたらなと思ってるんですが、やっぱり道の駅とは何ぞやというところも、基本的な話はしっかりしとかなないといけないのかなと。それは何とか調べるだけとかじゃなくて、ほかの外部の方の講師を呼んでというところを皆さん希望されているように見えるんですが。

藤川委員。

○藤川委員 すみません、おっしゃるとおりです。道の駅、確かに分かっているようで分かってないですね。1つ言わせてもらおうと、行政のほうで提案しているのが道の駅は決定です。スポーツ体験型も決定で何かこう発表してます。スポーツ体験型が本当に分からないんですよね。だからできればそこも言える講師さんがいらっしゃるのであれば、その辺、

道の駅は何となくインターネットで調べれば出てくるとは思うんですけど、スポーツ体験型というのが、やっぱり出てくるんですけど、大竹市とリンクしたスポーツ体験型というのが出てこないんですよ。体育館の中ですよ。検索して出てくるスポーツ体験型というのは、大体グラウンドなんですよ。グラウンドとか野球やサッカーができる、近くに遊具があるというのはたくさん出てくるんですけど、体育館型の道の駅というのがないので、その辺の研究というか、分かっている講師がいれば、難しいと思いますがお願いします。

○寺岡副議長 すみません、私は提案とか質疑じゃないんですけど、今日の会議も何か皆さんの前提条件に食い違いがあるんじゃないかなというふうに思います。2月19日の議員全員協議会の執行部の説明で、スポーツ体験型というのは執行部が否定してるんですよ。スポーツと体験なんですよ。だから、そのスポーツは競技スポーツ、生涯スポーツ、もしくは障害者スポーツ、こういったものにこだわらない幅広いものをスポーツとしてやっていきます。体験は、子供たちも含めた様々な文化的な体験活動ができる。なので、スポーツ施設及び体験施設なんですよ。2月19日の議員全員協議会の資料3ページ右側の執行部の回答の下の辺りに、施設イメージは体験施設、体育施設、農産物・海産物販売所、その他でスポーツ体験というわけではないですよ。スポーツと体験活動ができる施設ということなので、恐らくこれ、みんなそれぞれ捉え方が違うんじゃないかと思うので、それをはっきりしないと、視察含めた各調査活動にしても、講師の先生をお招きしてどういふ話を伺うのかとか、決まらないんじゃないかなと思うので、そこをもう一回改めて執行部にしっかり確認しておく必要もあるんじゃないかなと思いますし、体験ということになったら、むちゃくちゃ幅広いものになりますから、その中で、どこにでもあるような、ただ屋内の施設を準備したようなものにするのか、何かこうニッチなところについて、日本全国から人を呼べるようなもの、特化したものにしていくのか、その辺りの意見というのは議会から出していってもいいんじゃないかなというふうに思います。まずは前提条件の確認がすごい大事だと思います。

○小田上委員長 副議長、ありがとうございます。

議員全員協議会のときに、ちょうど副議長が質問されて、答弁を思い出された方多いんじゃないかなと思うんですけど、ここの確認が必要なのかなと感じました。本当に今言われたとおり、スポーツと体験は別だとなると、今、僕たちが思ってるものとか離れたものになるんじゃないかなというイメージがあるので、次の定例会のときに、執行部は同席してもらおう予定でありますので、その際、ここの確認をやっておいたほうがいいんじゃないかという提案がありました。執行部に聞きますか。これももう一回整理してもらいたいと。

小出委員。

○小出委員 ある程度的が絞れるものであれば、執行部からの回答を求めたいと思います。こちらが目的とする的が絞れるのであれば。ただ、前回の議員全員協議会のときに、大体のスポーツ体験型というのは、あまりにも漠然としてるので、おおよその想定を教えてもらえませんかということを書きましたら、現段階では発表できないというか、ただ、ここに書いてあるように、恐らく特定のものはないのかなというふうな印象を受けたんですよ。

ね。ですので、それ以上踏み込んだ答えが求められるものであれば、お願いしたいと思います。

○小田上委員長 末広委員。

○末広委員 多分ここに書いてる以上のものは今出てこないと思うんですね。なので、わざわざ呼ぶ必要はないのかなと思って。ここを再度確認して、スポーツとこの体験型が施設全体がアスレチックやレジャー施設など遊び体験などができるところ書いてありますから、別にこれでいいと思うんですね、呼ばなくても。

以上です。

○小田上委員長 定例会のときに、執行部に来てもらってプロポーザルとかの状況の確認というのはするので、わざわざ呼ぶというわけでもないかな。このために呼ぶという感じではないので、あと、補足なんですけど、この回答、例えばと書いているところは、例えばです。分かりますか、意味。これをやろうと思ってるわけではありませんというところを強く言われてますので、ここに引っ張られず、例えばで3つ上がってますけど、こういうものを取り払ったら、一体何が残るのかというのが分かってますか。その前提条件として、スポーツ、中黒点、体験が、スポーツの体験をするのか、文化的な芸術的な体験をする場なのかというところの整理はついてますか。皆さん。大丈夫ですか。

藤川委員。

○藤川委員 すみません、私ついていけてません。スポーツ体験型とスポーツ・体験型の違いがいまいち分かってない。正直なところ言います。

○小田上委員長 ありがとうございます。議員全員協議会のときに言われた、丸々覚えてるわけではないんですけど、方向として、スポーツはスポーツ、体験はあくまで体験なので、この体験というのが、スポーツに特化した体験ではない可能性もあるということなんだろうと僕は思ってるんですが。でも、そうじゃなかった方々もおられるんだろうと思うので、もう一回、スポーツの体験をしてもらうような施設になるのかどうかという確認はしておいたほうがよくないですか。それで方向性が全然違ってくると思いますけど、どうですか。

中野委員。

○中野委員 そうですね。私もこのスポーツ体験型という言葉にとらわれているんな事例を調べてみたんですけど、結局はないんですよ。このスポーツ体験型というのが、これというようなところが。やっぱりスポーツ・体験型、スポーツ体験型、どちらでもあれなんですけど、あくまで目的というのは、大竹市に来てもらうとかという大義があるはずなんですよ。その手法がスポーツとか体験というところにあるので、やっぱり道の駅に携わってこられた方が、例えば、さっきの地場産業なのか、体験型なのか、宿泊型なのかという、人を呼ぶためにこういう考え方、こういう連携が必要ですよという、道の駅という前提条件というところを調査研究しないといけないのかな。その上で、じゃあ民間の活力を導入しなければいけない。民間活力導入の事例の視察場所に行きましょうという流れになったのかなと思うので、スポーツ体験型にとらわれるんじゃなくて、道の駅、人を呼ぶ、人が来てもらうというところの調査研究を、講師をまず呼んでというところも、何ていうん

ですかね、スポーツ体験型だけにとられるのではなくて、道の駅の機能ってそもそも何なのか。人を呼ぶというところでどういう考え方、要素が必要なのかという方を、僕のイメージなんですけど、というところで、じゃあこの講師呼んだらいいんじゃないかというのが次までの宿題なのかなというイメージで考えてました。というところかなと思う。そこで、講師のお話を聞いて、道の駅ってやっぱりこういうところに注目しないといけない、考えないといけない。じゃあこの部分に関して、具体的な事例、視察に行きましょうというところの、この部分のまず勉強が必要なのかな。それで、前提条件、執行部から話してもらってというところになるのかなというイメージなので、このスポーツ体験型というワードだけにとられるとちょっと違うのかな。そもそも人に来てもらう。大竹の魅力を発信するというところの道の駅の知識が必要なのかなというふうに思ってます。なので、そういうイメージなのかなと思いました。次までの。

○小田上委員長 取りあえず今、スポーツと体験型の大竹市が持つてるイメージは聞かなくても大丈夫ということですか。

中野委員。

○中野委員 回答は同じでも、改めて確認したほうがいいのかと思います。このままふわっと行くよりは、一度聞いたほうがいいのかと個人的には思ってます。また、回答が変わる可能性もありますよね。これが追加で説明できるということかどうかの確認もできてないですかね。なので、確認はしたほうがいいのかと思います。

○小田上委員長 ここに書いてある以上はないんじゃないかというところですけど、あるかないかは聞いてみないと分からないというのがありますので、聞いてみますか。

末広委員。

○末広委員 わざわざ来ていただくという話なら別に聞けばいいと思うんですけど、別にあるかないかも、多分委員長がそこで聞いたら終わりの話なので、あれば聞けばいい話なので、それは別にどっちでもいいのかなと思います。

あと、すみません、中野委員のおっしゃるところなんですけど、コンセプト自体は執行部が出すものがあるので、そのコンセプトに基づいて研究するか、そもそも道の駅としてベースのところを勉強するか。順番はあると思うんですけど、私もさっき言いましたけど、ある程度方向性が見えてるので、そこに向かって研究するのか。道の駅のベースを知識として共有しとくのかというところのすり合わせも必要じゃないかなと思います。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。すみません。言葉足らずでした。基礎知識的な講義を受けたいんじゃないなくて、さっきも言ったスポーツ・体験型という手法、大竹市の特色だと思うんですね。だけど、その特色というのは各地域違う。だけど、この特色を選定するに当たって、こういう考え方が必要なんだ、仕掛け人としてはこういう思いでやったんだよというようなところの前提条件を僕は勉強したい、研究したいという思いでした。なので、道の駅とは何ぞやというところではなくて、そういう道の駅の3要素の地域、連携、機能というのが特化された道の駅が今増えてると思うんですけど、地域、連携、機能というところで何を大事にしてるのか、どういった形で取組でここまで進んだのかというところ

の、考えの部分、知識を知るというところなのかなという思いでしたので、道の駅って駐車場何台ありますみたいな、調べたら分かるというレベルのものじゃなくて、仕掛け人であったり、行政担当者か分からないんですけど、講師の方にお伺いして、そこのお話が聞けたら、今後の調査研究のアンテナを立てるところになるんじゃないかなという思いで講師を呼びたいなというふうな思いです。

○小田上委員長 ありがとうございます。

副委員長。

○細川委員 中野委員にちょっとお尋ねしたいんですけども、道の駅について、もうちょっと勉強していききたいということなんですけど、私いまち、今から民間の活力をどのように生かしていくかというのも、この2年、3年かけてやっていくわけですよね。そのときに、まだ運営方法決まなくて、どういう運営方法があるかというときなので、そこら辺の、道の駅の運営に関しても、公設公営のやり方が成功例としてあったのか、それとも、もっと民間活力をこういう形で導入したら、より可能性が広がったのかという、そこら辺も勉強の中身の中にイメージされてますか。

○小田上委員長 中野委員。

○中野委員 そうですね。ないとは思うんですけど、大前提として、道の駅ってこういうもんだよねというところで、調べないうちにいろいろ視察を進めていくというのはちょっと怖いなと思ったんですね。そもそも、道の駅を造るところの考え方で、やっぱりこのタイミングで民間活力というのが必要であるとか、さっきの道の駅の運営、こうしたほうがいい。例えば、ほかの市町とこういうふうな連携を取った事例があるとかというところの、特別委員会として、執行部に意見とかするときに、ここはチェックポイントあるんだなというチェックポイントの数、引き出しを増やすというところが大事なのかなという思いでそういうお話を聞きたい、そういう講師を呼びたいという思いでした。なので、それぞれ民間活力や道の駅の運営というところも必要な要素、聞きたい要素だなというふうに私は考えてます。

○小田上委員長 副委員長。

○細川委員 すみません、ありがとうございます。ぜひ私も勉強していききたいことなので、提案していただいたのはありがたいと思います。

さっきからのスポーツ体験型が出てるんですけど、基本的には小方まちづくり特別委員会で小方のまちづくりの基本構想については、原則、変えることはないというか、皆さん納得の上でというのは共通の考え方で来てるんですけど、ここのD地区、小方中学校の跡地はにぎわい交流ゾーンとしての、今回、道の駅の提案ですよね。ちょっとすみません、末広委員も含めてうちの会派でも少し話をしたんですけども、スポーツ・体験型でもスポーツ体験型でもどっちでもいいんですけど、にぎわい交流ゾーンとして、市外の方が多くこっちに来ていただきたいところに一番軸を置くのか。それとも、市民の皆さんの交流というんですか、市民の皆さんがたくさん来てくださって、そこで交流していくというところに一番の軸を置くのか。そこがいま一つ見えてこないねというのが会派の中での話でもあったんですよ。末広委員の提案としたら、市外からもいっぱい来ていただけるようなの

はどんなのがいいかというのをもっと研究したらどうかという提案だったと思うんですけど、まず、そこ、もし聞くとしたら、執行部としたら今度できる道の駅そのものということでは市外からの人にも来ていただくんでしょけれども、スポーツということに特化したことによって、どっちに重点を置くのか。そこをどのように考えてるのかというのはちょっと聞いてみたいです。もしお尋ねするとしたら。その上で、そこから先、私たちもじゃあもってこっこのほうがいいねという考え方も出てくると思うのでということです。

○小田上委員長 小出委員。

○小出委員 タイミング的に多分今難しいんだろうと思うんですが、プロポーザルのさなかで。予定では6月中旬に契約締結というふうになってますので、その段階では一度執行部のほうの、何か答えをいただけるかもしれないので、お話を聞いてみたいと思います。

○小田上委員長 今、副委員長が言われたのが、市外の人たちをターゲットにするのか、大竹市内の人をターゲットにするのか、どういう考え方をこの体験型のところで考えているのかということでしたね。

中川委員。

○中川委員 私のイメージは出来上がってるんですよ。道の駅が。道の駅の海産物物販とスポーツを一緒に建物の中に入れるということはまず駄目なんです。それをやると必ず失敗すると思う。1階を物販にして、2階をスポーツにすると必ず失敗します。という事例がたくさん出てました。だから、物販、休憩、レクリエーション、スポーツ施設、それぞれ分けてやるべきだと思うんです。ここに公園がありますから、公園はそれによって県外、市外から来る人を目的に利用すればいいと思う。体育館の利用もあると思うんですが、それ以外に、例えば、健康づくり、お年寄りの健康づくりなどに使えばいいんじゃないかと。その間に小さい子供さんが遊べるような施設、ここに足湯、温泉、シャワー、物販する道の駅と、そういうのをイメージしてるんですよ。ですから、スポーツといっても道の駅とはちょっと距離がある。そういう感じでイメージしてるので、ずっとそれで来てるんで。何かみんな一緒になってる、スポーツと道の駅がごっちゃになってるような気がしてならないんで。私はそういうイメージです。

以上です。

○小田上委員長 ありがとうございます。

どうですか。皆さんのイメージ。今、中川委員が言われたんですけど、ここからが道の駅のゾーンです、ここからが体育館のゾーンですというゾーン分けしている資料は以前あって、それは藤川委員が質問されて、面積とか特にはというところだったんですけど、どうですか。皆さんのイメージでもいいんですけど、あと、さっき副議長が説明してくれた議員全員協議会の回答のところ、ここをしっかりと読んどかないといけないと思うのが、スポーツ・体験型道の駅のイメージというところ。これ最初の段落はしっかりと読んどいたほうが良いと思います。一般的な道の駅のイメージの農産物や海産物の販売をメインにした道の駅ではなく、固定観念を変えて、スポーツと体験（体を動かすこと等）をメインにした道の駅。体験というのは体を動かすことに限られてるような気がするんで、本当に限ってるんですかというのはい聞いてもいいのかもしれないですけどね。等というのがあります。

すので、何でもできちゃうような気もしますが。イメージとしてどうしてもくっついてるイメージを持たれてる方、本当にセパレート制で分かれてる。建物自体も離れてるイメージを持って方というのがおられると思うので、そういうところも聞ければいいのかなと思うんですが、何か執行部に聞くことというのがちょっとずつ出てますけど、利用ターゲットをどうするかというのと、この体験というのをどうするかは執行部に聞く感じですね。

そのほか、聞いておきたいこと。イメージがそれぞれ違うんだろなというの、中川委員の発言で気づかされたところでもありますけど。執行部にこれ聞いときたいなということでもいいです。

暫時休憩いたします。休憩中に、講師を呼ぶとかというところの部分、執行部に聞きたいことを整理してください。再開は、11時20分といたします。

11時08分 休憩

11時20分 再開

○小田上委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。

皆様方、休憩されてる間も話をされて、考えをまとめる作業が少しできたかなと思えますが、どうですか。整理しておきたいのが、まず執行部に確認したいこと。次回の定例会会期中の特別委員会には執行部が来ますので、そこで確認しておきたいところを、まず、整理して、その後に取り組み方の整理をできたらなと思うんですが、今、メインターゲットはどこに置くのかということと、体験型の具体的なイメージをもう一回確認しようというところは出てるかなと思うんですが、ほかに聞きたいこと、聞いておいたほうがいいかなと思うことがありますか。

小出委員。

○小出委員 先ほどちらっと言ったんですが、契約後であれば、プロポーザルのある程度内容を示していただけるものなんでしょうかね。それによったら、漠然としている執行部のイメージもある程度形になってきてるのではないかというふうに思うので、その辺りは聞いてみたいと思います。

○小田上委員長 ありがとうございます。プロポーザルの決定がされていけば、業者というところは紹介されると思います。ただ、その考え方というのがまだ始まったばかりで出してくれるかどうかというところは、説明できる範囲でできる限りの説明をしてくれという依頼は可能だと思いますので、それも聞きましょう。

メインターゲット、体験型のイメージ、あと、プロポーザルについてと、業者、ひとまずこのぐらいを定例会の間の次回の特別委員会のときに聞きましょう。

これからの取り組み方なんですけど、講師を呼ぶというところで、例えば、民間の方、特にイベントを仕掛けられているような方とかとなると、講師というのは予算の関係もあるので、複数にわたってというのは、もしかしたら現実的じゃないかもしれないというところがあります。とはいえ、道の駅というところでは、行政職員が関わっていることのももちろん多いと思いますし、近隣でいけば廿日市市のまるくる大野とかというのは、執行部のほうも道の駅の運営に関して参考にしてるところもあるようなので、そういうところ、行政関係のところは聞けるかなと思ったりはします。なので、そういう講師を招

きながら、道の駅の基本のところ、押さえるべきところに合わせて、民間のイメージだけだとよくないので、行政がどう取り組んでいくかというところの姿勢を、いろんな事例を聞けたらなというふうに思うんですけど、そのような調査の仕方よろしいですか、ひとまず。

取組について、ほかに何か提案とか、イメージがおありだったらどなたでも結構です。何か発言してください。

中野委員。

- 中野委員 予算的などころで言うと、Zoomでの講演会とかというのはいいんですか。これからちょっと調べていく中で。予算的などころが分からなかったのを教えてください。
- 小田上委員長 Zoomでというところ、技術的には可能ですよね。なので、そこは予算の額面がちょっと今ぱっと出てこないの、事務局のほうと精査して確認しておきます。現段階で言えることありますか。

局長。

- 山田議会事務局長 基本的には、講師を呼ぶような予算というのはないので、今、あるのは、議員研修としての費用は、議会費では委託料ですので、個別で呼ぶということになると、多分それを原資に流用して、報償費と費用弁償を組むという形になっていくかなというふうに思いますので、あと、そこにどれぐらい費用をかけるかというところは、ほかの特別委員会との絡みもありますので、その辺りはちょっと相談させていただきながら、どこまで流用できるかという辺りで調整したいと思います。
- 小田上委員長 ありがとうございます。こういう取組をやっていくという中で、今後は予算要望もしないといけないかもしれないですね。それももっと必要というときには、予算に係るところもこれだけ調査やりたいから必要だという提案もやっていくべきかなと思ったりもしますので、いろいろ取組は提案してください。

末広委員。

- 末広委員 講師を考える上で、先ほど藤川委員からありましたスポーツ体験型の道の駅で絞ったら、確かに例がなかなかないので難しいと思うんですけど、スポーツ体験型の施設で考えたらいっぱいあると思います。それでまちづくりに成功した例と考えればいっぱいあると思うので、そういう講師の探し方もありではないかなと思います。

以上です。

- 小田上委員長 そうですね。道の駅の基本的なところは、調べれば分かるようなところじゃなくて、プラスでというところかなとは思いますが、じゃあ皆さん道の駅のこと、よく分かってますかという、そうでもないんじゃないかなと思います。道の駅のこと何でも知ってるよ、と今胸を張って言える方はこの中にいないんじゃないかなと思うので、基本情報はしっかり押さえておかないといけないかなと思います。ただ、道の駅だけに縛られずにというのは、執行部のほうも回答で言ってますので、そこも柔軟に講師選定できたらなと思います。

それでは、次回の特別委員会でこういう講師がいいんじゃないかとか、今回、具体例を挙げていただいている方もいますけど、こういう施設がいいんじゃないかというところで

何か提案をいただけたらと思います。こちらのほうでも考えておきますが、提案していただくと助かります。

それと、今、執行部に聞く点というのが3つ上がってますので、質問はこういう感じだというのは委員長でつくります。副委員長にも協力いただいて、3点つくって、皆様にはメールでお知らせしますので、こういう意味じゃなかったよとか、こうしたほうがいいんじゃないのという意見があったらお願いします。

皆さんの出してもらったもので質問とか特になければ、この中からの取組を具体的にこれをやっていったらいいんじゃないのというのがもしあれば、今日出してもらった中で、それを取り組んでもらうとか、今日、話し合った中で、どの取組がやっぱり必要だなと感じたこともあると思うんですよ。なので、次回が21日になるか、まだ議会運営委員会が行われてないので分からないですけど、そのときにどう取り組んでいくというのを決められたらと思います。

副委員長、何かおありだったら言ってください。

○細川委員 今の会の中で決まったことは、次回、市に3つのことを聞きましょうというのと、今後の取組の中で勉強会をしていきたいと思いますということだったと思うんですよ。次回にこういう視点でこういう講師がいいんじゃないかというのを提案いただくのと同時に委員長も考えてくるというのは2つで、私思ったんですけどね、今日はすごく具体的に皆さんからも道の駅、もしくはまちづくりの施設なんかを出していただいて、例えば、この中ででもいいし、プラスアルファでもっといいところがあるかもしれませんが、幾つかの視点で具体的な事例の研究をしていくというのは、するかどうかを次に決める。それとも、あまり今の時点でそういう具体的なところに踏み込むのはやめといたほうがいいのかという委員長の御判断でしょうか。せっかく出てきたんで、幾つか調査を、例えば、分担して調査してみるとか、自分はここをもうちょっと調べてみたいというのを自主的に取り組んでくるとか、そういうことをしてもいいように思ったんですけど、そこら辺の判断をお聞かせください。

○小田上委員長 どうでしょうかね。今この話の流れだと、あまり特化したところいきなり行っちゃうと、そこに固まっちゃうのかなと。特化し過ぎちゃって全体を見れなくなっちゃうのかなとふと感じたので、基本的なところからスタートしようかなと思ったんですが、それだともちろん時間はかかってしまう。前回の委員会のときに、実質的な調査の活動は7月からになると思いますというふうなお伝えしていますので、どうでしょうか、何か、どう区分けして取り組みます。別に具体的なことをやってもいいとは思いますが、

小出委員。

○小出委員 候補者の選定というのが、これは必要だと思いますので、次回までの宿題でいいかと思いますが、テーマをこのまま丸々全てを調査していくのか、ある程度絞った上で調査していくのかという辺り。どのテーマにするのかというのは、次回の執行部の説明を聞いた上で方向を決めたらどうかなというふうに思うんですが。

○小田上委員長 ありがとうございます。執行部の話を聞いて、これを基に、では、ちょっと副委員長に協力いただきたいんですけど、ざっくりいただいたやつで区分けというか、

3つか4つか分かんないですけど、分けておいて、似たようなものをくっつけて、テーマづくりとして。軸としては、基本情報をしっかり調査しましょう。それとプラスアルファの取組として、班分けなりで取り組んでいく、個別の事例、なるべく小さいものにならないように、大まかな取組としてというところでやっていきますか。だったらいいのかなと思うんですけど、分かりますか。テーマは3つか4つか分かんないですけど、複数のテーマをつくって、班分けして、そのテーマについての調査をしてもらおうと。それをグループごとに発表してもらおうというような取組もできるかと思うんですが。

副委員長。

○**細川委員** 私、方向性はいいと思うんですけど、今、小出委員から、次の執行部の思いもしっかり聞いてから、どこにターゲットを絞っていくのかというのをやったほうがいいと思うので、今の時点ではちょっとできないと思うので、次の執行部の話を聞いてから、そういう具体的なのを作っていくということならいいと思います。

○**小田上委員長** 藤川委員。

○**藤川委員** ありがとうございます。すみません、今の流れで私も全然賛成です。いいんですけど、私は例えば自動運転のバスだとか、道の駅についてとか、本当すごい小さいところを提案させてもらったんですけど、大きく今は見たほうがいいのかなというところで道の駅全体の勉強会をする。それは全然やっていただければありがたいところです。今から次回に調査研究テーマを決めていくと。その調査研究したテーマをどう扱うのかというのがちょっと私は分からないんですよ。どういうふうな、この委員会として、その研究テーマで研究したものをどこでどういうふうに扱っていくのか。もしイメージがあったら教えていただければ。

○**小田上委員長** 例えば、グループを2つに、ここでAとBで分けます。Aが調べてきて調査した項目というものをここで発表して、Bのほうが質問したりとかして、そういう取組があるんだ、そういう事例があるんだ。質問することによって、そこが調べ切れてなかったなとかいうところで、そのテーマについての学びをお互いに深める。今度は、Bが発表して、Aが質問して、そのテーマについて深めるというイメージを今持ってたんですけど、ほかのやり方がいいですか。

藤川委員。

○**藤川委員** その後なんですよ。例えば、特別委員会として執行部に提案していくのかというところもちょっと、もし今はっきり言葉出ないかも分からないんですけど、イメージとして持っておきたいのでお願いします。

○**小田上委員長** 道の駅に関しては、こういう機能が欲しい、こうあるべきじゃないかという意見をまとめることができれば、執行部に出すつもりでいます。それは、12月に向けて頑張らしましょうねといってるところで一致しているので、その中で出てきた細かいこともやっぱり取り入れとかなないといけないよねというふうに皆さんで決めていただければ、それは執行部に対して要望を出すというのは可能ですし、そのためのテーマ選定、テーマづくりをして調査研究していくという思いでいただければと思います。答えになってますかね、藤川委員。よろしいですか。

それでは、まとめます。3点ほどありましたので、それを執行部に聞いて、プラスで、今、道の駅に特化して話をしていますが、A、B、C、Dの区分けされてるところのAのところだったりの進捗状況というのも聞くようにしたいと思いますので、それで執行部にまず聞いて、それにプラスで質疑応答をしてというところを次回考えてます。

それと、皆さんの宿題としては、講師と、こういうテーマ、今日話した中で、意見とか思いを出し合った中で、こういう調査のテーマがいいんじゃないかなというものがあれば用意していただくというところかなと思います。

次회가、予定としては21日に特別委員会の予定ですので、そこまでにまとめておいてもらって、7月からはしっかり調査に入れるようにしたいなと思いますので、よろしいですかね。

中野委員。

○中野委員 ありがとうございます。次は施設だったり、講師であったりというのをプレゼンするという形ですよ。僕はこういう人がいいと思うんです。次にその中から決定まで行くということですか。じゃあ結構調べといたほうがいいですよ。どういう方に話していただきたい。こういう話があるというところということですね。分かりました。それで調べて提案します。

○小田上委員長 講師については、21日にいきなり出していただいても決められないと思うんですよ。事前に見ておかないと思うので、講師を呼ぶ場合、中野委員から先ほどありましたけど、Zoomとかオンライン上で対応してもらったつもりなのか、来てもらったつもりなのかということも、併せてこの人がいいと思いますというところに記入しておいてもらえたら。どういう想定をしているかということもお願いします。

一般質問される委員もおられますし、時間的には大変だと思いますが、本会議初日が17日を予定していると思いますので、この提出期限が、本会議終わってからのほうがいいですか。でしたら、予備日が19日なので、19日までに講師の選定したものを提出してください。まとめて前日にはサイドボックスに掲載できるように事務局のほうの協力もよろしくお願いします。なので、早めに送ってください。19日の15時までとします。前日のいつかのタイミングで掲載できるようにしますので、お願いします。これはPDFデータで事務局に送っていただいたらと思います。

その程度かな。何か欠けてると思うことがあれば御指摘ください。何かこうしたほうがいいんじゃないとか。何でも結構です。御意見とかあれば。

小出委員。

○小出委員 調査項目で私の2項目が抜けてましたので、今日、事務局のほうに送りますので、それをもう一度まとめていただきたいので、お願いします。

○小田上委員長 大丈夫ですかね。では、対応をよろしくお願いします。

大分時間もたちましたが、議長よろしいですか。特にございませんか。

それでは、しっかり調査に入れるように、講師の選定もそうですし、今日話した中でやっぱり自分と委員とずれがあるところもあるんだろかなというところは分かったと思うので、どういう取組をしていけばそのずれがどんどん解消されるのかなというところも念頭

に置きながら、できれば皆さん、活発に発言いただいて、自分は今こう思ってるんだけど、このをどんどん出していただいたら、ずれが少なくなってくると思うので、もっともっと発言を。今日皆さん発言いただいていますので、しっかりこれからも御協力いただければと思います。

副委員長、よろしいですか。

それでは、議会運営委員会で次回の特別委員会が決まりますので、開催は21日を予定ぐらいで考えておいてください。来週月曜日の議会運営委員会で決まり次第、また通知が行くと思いますので、よろしくお願ひします。時間もまだちょっとよく分からないので、締切りだけ守ってください。よろしくお願ひします。

小方まちづくり特別委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

11時41分 閉会